



学校名変更の意義

本学の創立は、1987年、現理事長の大橋博を中心に、環太平洋諸国の教育界の叡智が集まり「21世紀の高等教育のあるべき姿について協議する」ことから始まった。

大橋を支える事務局長には、前WASC（米国西部地域私立学校大学協会、脚注）専務理事のケイ・アンダーセン氏が就任。高等教育とその認証に関する同氏の深い造詣は、このプロジェクトを推進する上で大いに有意義であった。

また、コロンビア大学名誉教授のハーバート・パッシン氏もこれに参加。日米の社会や大学を知り尽くしており、国際的高等教育機関のあるべき姿を策定する上で、非常に有力であった。

1年半に渡る協議の結果、ついに「環太平洋に複数のキャンパスを持ち、それぞれで取得済みの単位を互いに認め合うことで、卒業単位を修了すれば学位が取得できる」という、新しい高等教育構想がまとめあげられた。

その構想の第1号キャンパスとして、1990年、ニュージーランド建国150周年の年に本学は創立され、2015年までの25年間、IPC（インターナショナル・パシフィック大学）として知られてきた。理事長大橋博がキャンパスを選定するにあたっての条件は以下の通りであった。

- 一、学生達の生命、財産、安全が保証されていること。
- 二、世界的に通用する高等教育機関が充実していること。
- 三、若者達が青春を過ごすのにふさわしい豊かな大自然があること。

これらの条件を満たす理想的学習環境として、ニュージーランドの第1号キャンパスは、世界各国から母国を離れて集ってきた留学生やニュージーランド人学生らを支援成功してきた。今日、パーマストンノースのキャンパスには20カ国以上からの学生らが共に学び暮らしており、高等・中等教育機関との相互協力ネットワークはアジア全土に広がっている。

2007年、日本の岡山市に、第2号キャンパスである環太平洋大学が設立された。同校は「教育と体育の融合」をコンセプトに、短期間で中国地方有数の大学に成長した。

第1号キャンパスが国際ビジネス学を強化した現代国際学科（他の専攻は国際関係学、日本研究、言語（英語教授法）研究、環境学）をスタートしたのに合わせ、第2号キャンパスも2016年4月より経営学部現代経営学科スタートの認可を受けたことから、そもそもの構想であった学生や教員らの相互交流が実現するようになった。

この機会に、創立時の構想を具体的な校名に反映してより広範に訴求すべく、ニュージーランド教育資格審査局（NZQA）の承認を受けて、2015年9月をもって第1号キャンパスはInstitute of the Pacific United New Zealand、すなわちIPU New Zealandに校名変更した。この新校名はニュージーランドから太平洋を渡ってアジアに広がる本学のつながりをより明確に示唆するものである。

今後、構想のさらなる充実のために第3号キャンパスの設立に向けて準備する中、構想の中心たるべく第1号キャンパスとしての役割を果たし、特にアジアを重点においた環太平洋諸国における他に例を見ない高等教育機関として、IPU New Zealandは邁進したい。

（注）WASC = Western Association of Schools and Colleges 米国西部地域私立学校大学協会。
米国教育省認定の学校認定機関のひとつ。